

「体験型観光に来てみんな！」

体験型観光で

修学旅行生を集客

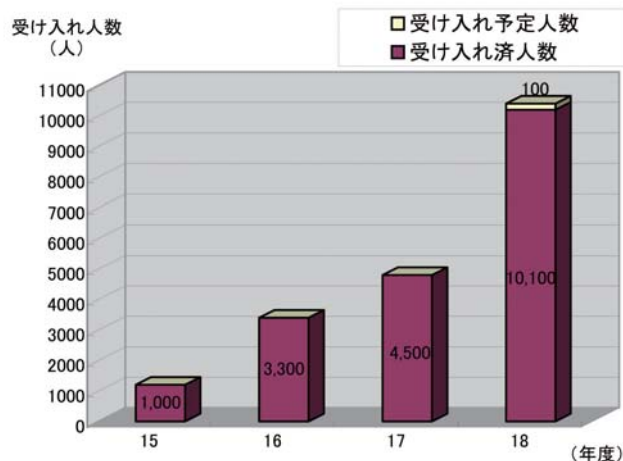
松浦体験型旅行協議会は、平成14年1月に発足し、体験型修学旅行の受け入れを行う「ほんなもん体験」の活動を始めました。

平成14年8月から、漁業・農林業・味覚体験などの受け入れ準備を開始。平成15年5月に、青島で本格的な体験の受け入れをスタートしました。

その後、平戸市や北松地域も含めたNPO法人体験観光ネットワーク松浦党も組織され、現在では13地区の受入組織で約90のプログラムが実施されています。

左の表で分かるように、修学旅行生の受け入れ人数は順調に増えてきています。関東や関西から多くの中・高生が訪れ、ほんなもんの体験をし、松浦市民と交流を深めています。

年度別受け入れ人数



今年度の受け入れが

1万人を突破！

今年度の受け入れ人数が、2月14日の受け入れで1万人を突破し、1万人達成セレモニーが文化会館で行われました。

この日修学旅行で訪れたのは、茨城県日立市の明秀学園日立高等学校の2年生222人。セレモニーでは、松浦龍王太鼓の披露の後、松浦市長から同校の中原昭校長に記念品が手渡されました。

また、2組の平山珠実さんが体験を前に「松浦でのすべての体験を大切にします」と生徒代表で抱負を述べました。



▲1万人達成を記念して松浦龍王太鼓を披露



▶友広松浦市長（写真左）から中原校長（写真右）に記念品が手渡されました



▶生徒代表のあいさつをする平山珠実さん

「お父ちゃん、お母ちゃん、 ただいま！」

上志佐体験型振興会

神田 厚さんファミリー



神田さんファミリーと長浜高校の3人。後列一番左が神田厚さん。前列右から長浜高校の磯野さん、三浦さん、徳田さん。

平成17年12月の修学旅行で「ほんなもん体験」に参加した滋賀県立長浜高校の生徒が、民泊先の神田厚さん宅に卒業旅行で訪れました。

訪れたのは同校3年生の徳田夕貴さん（18）、磯野由希実さん（17）、三浦ちはるさん（17）の3人です。3人は進学、就職先が決まり卒業旅行を計画。「松浦のお父ちゃん、お母ちゃんに会いたい」と意気投合し、お年玉とアルバイトで貯めたお金で、2月2日から5日までの4日間、神田さん宅を訪れました。

神田さんファミリーは、平成16年1月の上志佐体験型振興会発足当時から田舎体験と民泊受け入れを行っています。民泊では3〜6人の子どもたちを受け入れ、昨年は10団体約50人を受け入れました。神田さん自身、高校3年当時に北海道で酪農実習を経験しており、実習を通して得た人の温かみが忘れられず、民泊を受け入れる今、子どもたちに「田舎体験・民泊を通して、心の土産を持ち帰ってほしい」と考えています。

神田さんは「民泊が終わると手紙のやり取りはあっても、会えるのはこれっきりだと思っていました。3人が『お父ちゃん、お母ちゃん、ただいま』と帰ってきてくれたときはうれしく、体験活動に参加していて本当によかったと思いました」と話していました。

また、3人は「成人や結婚など人生の節目と、9年後の『お父ちゃん、お母ちゃんのお金婚式』に帰ってきたい」と楽しそうに話していました。

